

ハイチに「義肢製作工房」



被災者の左足切断部を確認する八尾さん
(手前) AMDA提供

今年1月のハイチ大地震の被災者を支援しようと、国際医療救済団体「AMDA」(本部・北区)は16日、ハイチ首都ポルトープランスにあるゲスキオ病院内に「義肢製作工房」を設置すると発表した。対象は被災で手足を失った50人程度。敷地整備を既に終えて週明けから製作工房の建設工事が始まる。

AMDAはこれまで医師、看護師など35人を派遣し、多くの足の切断手術を行った。歩けないと就労も困難なことから、現地で義肢装具士、八尾直毅さんが中心となって義肢プロジエクトを進める。八尾

AMDAが設置へ

さんの恩師で、熊本総合医療リハビリテーション学院義肢装具学科の小峯敏文さんの協力を得て、日本国内で義肢装具の中古部品を集めた。AMDAは今年、集まった約500点の部品をハイチ隣国ドミニカ共和国に発送。同国経由でハイチに義肢装具を送る。

AMDAによると、これまで現地協力者の医師とともに
中古部品500点
現地へ贈る

被災キャンプ地を訪問。今月からポルトープランスで説明会を開き、切断した患者本人や家族などが参加するという。今後、2年間にわたり、支援プロジエクトを進める。

【石戸諭】